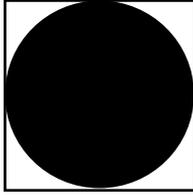


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 145

2015. 9

〒113-0033 東京都文京区本郷2-30-14 文京ビル206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 宮坂元裕

ニュース担当 北川智久

E-mail: kitagawa@elementary-s.tsukuba.ac.jp

巻頭言

聖心女子大学 水島尚喜

これからの教育の形を模索する「文科省教育課程部会教育課程企画特別部会（平成27年8月20日開催）」による論点の整理（案）では、以下の内容が示されています。（文科省HPより）

図画工作、美術、芸術（美術、工芸）

○図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）においては、創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心を持って、生涯にわたり主体的に関わっていく態度を育むこと等に重点を置いて、現行の学習指導要領に改訂され、その充実が図られてきているところである。

○一方で、感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること等については、更なる充実が求められるところである。次期改訂に向けては、幼児期に生まれた豊かな感性と表現等の基礎の上に、小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力を、3つの柱に沿って明確化し、各学校段階を通じて、育成すべき資質・能力の相互の関連や学習内容との関係を一層明確にした主体的で創造的な学習活動、生活や社会の中の造形や美術の働きや美術文化に関する学習活動の充実を図り、豊かな情操を養っていくことが求められる。

造形美術活動が、作品を制作することのみならず、社会の大きな枠組みの中で豊かな関係性を築く態度や資質・能力を、どのように保障していくかが問われている、といえるでしょう。また、注釈には、「芸術教育は、子供たちが自分の発達特性を認識し、感情や行動をコントロールしていくための素地を作るといった側面があることを踏まえた指導の充実が必要との指摘があったことも踏まえつつ検討が求められる。」とあります。

3・11の被災地では、手向けられた花や1つ1つ丁寧に置かれた石積みなどが、とても印象的でした。人は時間、空間の中に「形づくり」行為をとおして、自己を定位し、前進することが可能になる存在であることを教えられました。子どもたちの教育を考える際にも、形象化したりイメージをもつことの根源的な意味を確認しながら、造形美術の働きについてアピールすることが大切であると考えています。

第49回 日本美術教育研究発表会2015 案内

1. 日時 平成27年10月18日（日） 9時30分受付～16時30分閉会予定
2. 会場 東京家政大学板橋キャンパス 図書館棟
〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
3. 主催 公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）
4. 後援 文部科学省（申請中）

第49回 日本美術教育研究発表会2015（最終案内）

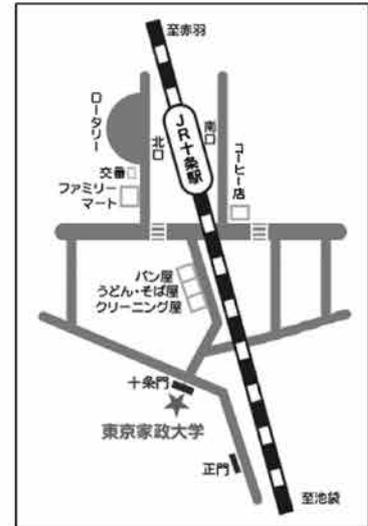
□主 催： 公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）

□後 援： 文部科学省（申請中）

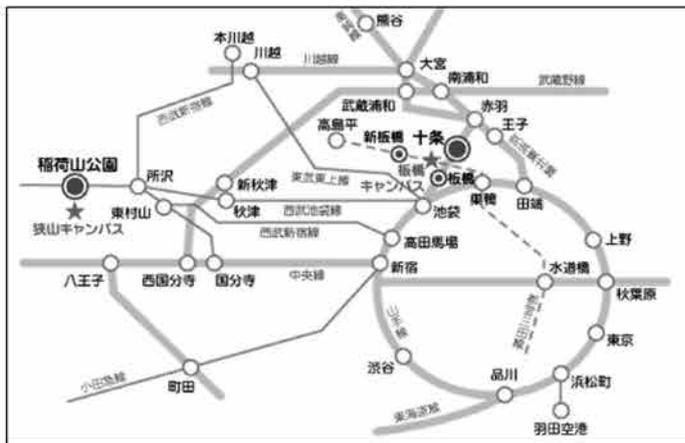
□開催日時： 平成27（2015）年
10月18日（日） 9時30分～16時30分

□会 場： 東京家政大学板橋キャンパス図書館棟
〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/about/access/tabid/99/index.php>

□アクセス： JR埼京線十条駅下車徒歩5分
JR埼京線板橋駅下車徒歩17分
都営三田線新板橋駅下車徒歩12分



会場案内図



□参加資格： 会員以外の方でも参加できます。
参加費は500円、事前申込は不要。
お誘い合わせの上、ご参加下さい。

□昼 食： 当日、近隣には昼食を購入できる店はありません。また、学生食堂が日曜休業のため、昼食は持参してください。

□問合せ先： 研究局長 [事前・事後]
山口喜雄 宇都宮大学
TEL&FAX 028 (649) 5364
nobuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp

緊急連絡 [当日のみ]
結城孝雄 東京家政大学
携帯電話 090-2387-6094

第49回 日本美術教育研究発表会 2015

平成27(2015)年10月18日(日) 会場 東京家政大学図書館棟
 主催 公益社団法人日本美術教育連合 後援 文部科学省(申請中)

9:30	受付(当日、会場案内を1階に掲示します)			
9:45	開会式(発表会場 A103A室/定員200名/3階)			
9:55 (移動)	発表会場 AとB は3階、CとD は4階			
	発表会場 A (制度・海外)	発表会場 B (美術教育実践など)	発表会場 C (鑑賞教育など)	発表会場 D (保育・発達)
10:00	戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(17) - 「適応」と美術教育に関する考察 - 宇都宮大学 山口喜雄	戦後美術・図工教員によるオーラルヒストリーの研究 - ものづくりを通じた人間形成の実践と継承 - 東京家政大学 大学院 三村 彩子	デジタルコンテンツを活用した自律的・協働的鑑賞活動(I) - 間テクスト性概念に基づくデジタル鑑賞教育の原理 - 香川大学 安東 恭一郎	地域の子育て支援活動に参加した大学生の学び 実践女子大学 井口 真美
10:25 (移動)	A1	B1	C1	D1
10:30	創造主義を支えるシステムの顕在化 - 日本の美術教育におけるデュイの受容と展開 - 東京造形大学 小林 貴史	高学年児童の意欲を引き出す描画指導の実践 -ヨーロッパの現代芸術教育学の遺産を手がかりとして - 足立区立青井小学校 黒田 潤子	デジタルコンテンツを活用した自律的・協働的鑑賞活動(II) - 脱構築論的鑑賞の体験を根拠とした鑑賞授業の試案 - 東京家政大学 畑山 未央	異年齢保育における「造形」のあり方についての考察 秋草学園短期大学 小口 偉
10:55 (移動)	A2	B2	C2	D2
11:00	[モジュール発表] トルコのイスタンブールにおける美術教育 滋賀大学/宇都宮大学/福島大学 新関伸也/山口喜雄/天形健	[モジュール発表] 造形批評獲得のためのプログラム開発 武蔵野美術大学 三澤 一実	[モジュール発表] デジタルコンテンツを活用した自律的・協働的鑑賞活動(III) - 「新しい能力」と鑑賞教育を結ぶ実践研究 - 東京家政大学 結城 孝雄	木材の端材等を有効利用する造形用素材の開発 群馬大学 林 耕史
11:25 (移動)	A3	B3	C3	D3
11:30				丸シールとクレヨンの構成遊びについて 鶴見大学 非常勤講師 馬場 千晶
11:55				D4
12:00	研究発表者への諸連絡(全員要出席)			
12:10	昼食・休憩 (11:55~/65分) ※当日、近隣には昼食を購入できる店はありません。また、学生食堂が日曜休業のため、昼食は持参してください。			
13:00	ニューヨークのファミリープログラムによる在留日本人子女の教育の実践 - ノグチミュージアムでの現地調査から - 福岡教育大学 非常勤講師 樋口 和美	2030教育モデルと美術科教育における人間性育成の検討 東京学芸大学 山田 一美	美術館における体験型作品の鑑賞支援効果について 筑波大学 大学院 阿部 美里	若い幼児教育者が日頃感じる「造形指導上の悩み」についての一考察 東京家政大学 森田 浩章
13:25 (移動)	A4	B4	C4	D5
13:30	美術教育における色彩と感情の関係 - ミッフィー(うさこちゃん)の絵本を題材として - 佐賀市立城北中学校/ 中村学園大学 姉川明子/姉川正紀	美術科教員養成における地域振興活動の実践 - 「群馬県やま・さと応援隊」の活動について - 群馬大学 齋江 貴志	対話形式を取り入れた鑑賞の授業実践における実効性と授業改善の視点 福島大学 大学院 宮田 彰史	造形表現活動における「見立て」と「仕立て」の構造 鶴見大学 鮫島 良一
13:55 (移動)	A5	B5	C5	D6
14:00	美術教育における内容言語統合型学習(CLIL)の研究 - スペインにおけるCLILの授業実践と評価方法について - 大分大学 藤井 康子	図画工作科研究主題に関する一考察 - 2015年関東地区国立大学法人附属学校の研究紀要および参観に基づいて - 宇都宮大学 4年 吉澤 友希	CCAA(市民の芸術活動推進委員会)における芸術活動の位相と原理 聖心女子大学 大学院 辻本 由比	描画活動に関する指導の研究 - 絵の嫌いな子どもたちの要因と指導法について 東京家政大学 4年 松永 美里
14:25 (移動)	A6	B6	C6	D7
14:30	休 憩 (14:25~/15分)			
14:40	韓国における2015教育課程改訂の方向と内容 春川教育大学校 柳 芝英	教員養成系学部におけるデザイン思考を活用したポスター制作実践研究 - アクティブ・ラーニングの一事例 - 玉川大学 非常勤講師 直井 崇	もう一つの美術教育 - デザインセンターにおける造形教育 - 東京家政大学 大学院 中條 秀憲	子どもの美的体験における比喩的イメージの活用と課題IV - 身体経験に基づく比喩的イメージの形成 - 東京福祉大学 立川 泰史
15:05 (移動)	A7	B7	C7	D8
15:10	図画工作科における「授業化」に関する一考察 東京学芸大学 西村 德行	空間認識力の発達とボディ・イメージに関する一考察 埼玉県立越谷西特別支援学校 小野 恵	SEA - Socially Engaged Art としての美術教育 神奈川県立大和南高等学校 片桐 彩	色覚特性をもつ子供たちの抱える課題 - 図画工作の授業に着目して - 東京家政大学 4年 日比 歩
15:35 (移動)	A8	B8	C8	D9
15:40	短期大学における教員養成の課題と可能性に関する考察 國學院大学栃木短期大学/ 宇都宮大学 大学院 名取 初穂	身近な世界との関係を編み直すための造形教育プログラムの研究 - 子どものユーモアを切り口として - 東洋大学 北澤 俊之	地域総ぐるみの公開研究保育の実践 聖徳大学短期大学部 北沢 昌代	幼児の描画にみられる色彩の特徴 和洋女子大学 島田 由紀子
16:05 (移動)	A9	B9	C9	D10
16:10	閉会式(発表会場 A)			
16:25				
16:40	懇親会 ※当日、受付にてお申し込みください。 (一般3000円、院生・学生2000円: 昨年37名が参加しました)			
18:30				

第49号 日本美術教育研究論集 2016

【投稿および掲載要項】

研究論集編集委員会

投 稿 要 項

- 投稿条件： 第49回日本美術教育研究発表会の研究発表者は、『第49号研究論集2016』に投稿できます。投稿論文の研究論集への掲載は、次の(1)～(5)の条件を全て満たしたものに限りません。
- (1) 投稿原稿が、研究発表会における発表内容と基本的に同じ内容であること。
 - (2) 投稿原稿が、研究論集の要項に適合して、書式・分量等が守られていること。
 - (3) 掲載料を期日(2015年11月11日)までに納入していること。
 - (4) 作品の図版や写真・VIDEO映像等の著作物を利用する場合および写真等の肖像権は、投稿者が必ず事前に著作権者・出版社・所有者・本人もしくは保護者等の許諾を得ること。
 - (5) 引用文献には、脚注または本文中に発行所・出版年・該当頁等の出典を明記すること。
- 研究論集編集委員会において、投稿原稿の掲載が妥当と判断されること。
- 論文査読： A群(理論・実践研究論文)・B群(実践研究報告等)・C群(研究ノート)ともに複数の査読委員が査読を行い、編集委員会での審議を経て投稿原稿掲載の可否を決定します。掲載が決定した論文は、各主査がまとめて論評し、各論評を研究論集の〈論評の部〉に掲載します。
- 原稿書式： A群・B群・C群ともに、本文および図版(写真・表・図等)等、英文サマリー(A群のみ)を含め、下記の文字数を守って下さい。
- 1頁分は、A4横組2段 23字×44行×2段=2024字です。
- 第1頁のみ第1行目から第5行目(2段取り)までに、題目(副題)・所属・氏名を記載し、本文との間に2行(2段取り)のスペースを空け、本文は、8行目から書き始めます。
- 共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみとします。
- 大項目 1. 2. 3. [全角数字]…、中項目 (1) (2) (3) …、小項目 ①②③…。
- 掲載要項： A群・B群・C群ともに原則として8頁(C群のみ6頁も可)とし、掲載料は一般(給与を得ている内地留学生等を含む)15,000円、院生・学生8,000円です。
- 2頁増ごとに6,000円を加算し、10頁では一般21,000円、院生・学生14,000円です。
- 増頁の上限は12頁で、一般27,000円、院生・学生20,000円です。
- 原稿は、①ワープロ等で印字し、②テキスト形式で保存したCD-R等を合わせて提出すること。CD-R等の未提出の場合は、一般・学生とも加工料込み30,000円です。
- カラーページは1頁につき12,500円を加算します。
- 抜き刷り(一律50部)は、8頁モノクロで7,000円です。2頁増ごとに2,000円を加算します。(抜き刷りのカラーページは、1頁ごとに2,000円を加算します。)
- 掲載料は投函以前に納入し、送金の証明書(利用明細書のコピー等)を同封して下さい。
- 口座記号番号：00170-1- 86036 (右寄せで記入) 郵便振込です。
- 加入者名：社団法人日本美術教育連合
- ご依頼人：(〒)おところ・おなまえ・電話番号・所属
- 通信欄：例 掲載料15,000円(一般、8頁)+増頁分6,000円(2頁増の場合)=21,000円(計10頁)
- 抜き刷りを希望の場合は、その旨明記し、必要な金額を加算してください。
- ※査読の結果、掲載に至らない場合は10,000円(院生・学生は5,000円)のみ返金となります。抜き刷りの料金については、全額返金します。

〈投稿原稿〉11/11(水)必着

- 投稿〆切： 2015(平成27)年11月11日(水)必着。A群・B群・C群とも、①正1部と副4部(コピー可)計5部、②原稿CD-R等、③送金証明書を提出して下さい。投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認めません。ただし、研究論集編集委員会が修正を求めるときは、この限りではありません。なお、発行日は2016(平成28)年3月31日を予定しています。
- 送付先： 〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
東京家政大学 家政学部 児童教育学科 結城孝雄 宛

連絡・問合せ

- 詳細連絡： 研究発表会当日に詳細を連絡します。口頭発表者は時程と場所を二次案内で確認して下さい。
- 問合せ先： 研究論集編集委員長 小林貴史:042-637-8111(代) ktakashi@zokei.ac.jp(東京造形大学)

造形・美術教育力養成講座 第2期2次 「子どもと造形表現」 連続講座を終了して

事業局長 水 島 尚 喜

8月24日、25日の両日にわたって開催された連合主催の連続講座「造形・美術教育力養成講座」—子どもと造形表現—（第2次、全8回）が、恙無く終了しました。以下に終了後に実施した「参加者全員アンケート」の結果をもとに成果を報告申し上げます。

本年度は、武蔵野美術大学新宿サテライトを会場として連続講座が開催されました。会場の交通アクセスも大変すばらしく、参加された方々の会場に対する評価は上々でした。

本年度の参加者数は、21名で、61講座分の受講がありました。第1次の参加者数より少なくなりましたが、その分、濃密な展開がなされたように感じます。内、第2期1次及び2次を通した全8回の満了者は、前田正子先生、赤地桜先生、森井健太先生の3名の方々でした。ご熱心に受講下さり、まことにありがとうございました。

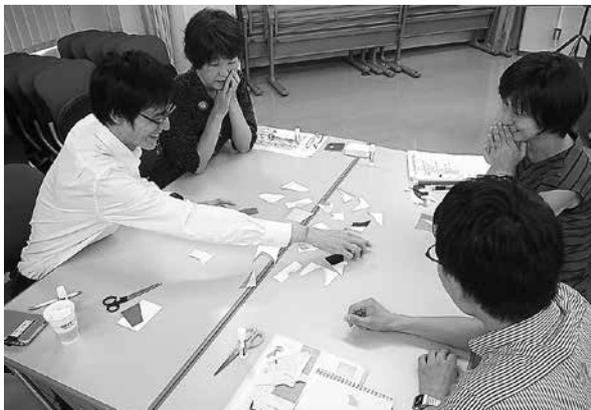
講座内容に対しては、肯定的意見が大半でした。特に、ワークショップ形式（アクティブラーニング）による内容を、授業に生かしていきたいとの感想が多数ありました。一方、今次よりインターネットによる参加申し込みのシステムを導入しましたが、申し込み受領の返信方について今後の改善が必要です。

開催時期については妥当との意見が大半でしたが、地域によっては学校が始まっている場合もあるので、1週間程度、開催を早めることも今後の課題となります。種々の状況を見据えながら、次年度以降も開催時期を検討したいと思います。

参加者の大半は、昨年同様に小学校教員及び美術館学芸員ボランティアの方々で、中学校教員、塾経営者、学生の方たちのご参加もありました。一般保護者向けへの周知、参加が、これからの課題です。

今後の講座内容への希望としては、以下の内容がありました。これからの事業計画に、反映していきたいと思えます。

「関西でも同じ講師陣でお願いしたい。（小学校教諭）」、「言語活動と図工美術について（中学校教諭）」、「日本美術、文化に携わる方のお話（小学校教諭）」、「対話型鑑賞、VTS、創造美育運動、幼児教育、レッジョ・エミリア、アート・セラピー（小学校教諭）」、「図工美術とIT（教材卸売業者）」、「学校と地域との繋がりによる事例、グローバル社会に対応する方策（個人画塾主催）」、「子どもの絵の見方、ワークショップ（教諭）」、「具体的な授業の進め方、新しい潮流」



西村徳行先生のカードを用いた絵合わせゲーム



宮坂理事長による「講座修了書」の授与

公益社団法人日本美術教育連合 第5期 第1回理事会議事録 (内閣府提出仕様)

1. 招集通知 平成27年6月3日(水)
2. 開催日時 平成27年6月28日(日)午後1時30分～4時30分
3. 開催場所 東京家政大学
4. 出席した理事の氏名 大坪圭輔 水島尚喜 宮坂元裕 山口喜雄
(公休) 郡司明子
5. 出席した監事の氏名 北澤俊之
6. 議事の経過の要領及び議案別議決の結果

定款の規定に従い互選により理事宮坂元裕が議長に就任した。

その後、直ちに議案の審議に入った。

第1号議案 大坪圭輔理事より国際局の本年度の活動計画について次のような提案があった。

2017年、大韓民国 大邱市で開催のInSEA世界大会について、会員に情報を流すなど、具体的な提案を行った。それに対し、慎重審議した結果、第1号議案は全員一致をもって可決決定された。

第2号議案 山口喜雄理事より研究局の本年度の活動計画について次のような提案があった。

結城孝雄事務局長の協力により第49回日本教育研究発表会の会場と日程が東京家政大学板橋キャンパスにおいて2015年10月18日に決定した。

研究発表会の運営について慎重審議した結果、第2号議案は全員一致をもって可決決定された。

第3号議案 水島尚喜理事より事業局の本年度の活動計画について次のような提案があった。

大坪圭輔理事の協力により2015年8月24日25日両日、武蔵野美術大学新宿サテライトを会場として、幼小中学校教員、美術館関係者、日本美術教育連合会員、大学院生、大学生、画塾等経営者を対象とした、『造形・美術教育力養成講座、第二期2次(2年目)子どもと造形表現』として開催したい旨の提案があった。内容と運営について慎重審議した結果、第3号議案は全員一致をもって可決決定された。

第4号議案 第6期役員改選にあたり、選挙管理委員長について

宮坂元裕理事より、西村德行会員の推薦があり、慎重審議した結果、第4号議案は全員一致をもって可決決定された。

以上をもって議案のすべてを終了したので、議長は午後4時30分閉会した。

公益社団法人日本美術教育連合 第5期 第2回理事会議事録 (内閣府提出仕様)

1. 招集通知 平成27年8月3日(月)
2. 開催日時 平成27年8月30日(日) 午後1時30分～4時30分
3. 開催場所 東京家政大学
4. 出席した理事の氏名 大坪圭輔 水島尚喜 宮坂元裕 山口喜雄
(公休) 郡司明子
5. 出席した監事の氏名 北澤俊之
6. 議事の経過の要領及び議案別議決の結果

定款の規定に従い互選により理事宮坂元裕が議長に就任した。

第1回理事会議事録の確認を行った。

その後、直ちに議案の審議に入った。

第1号議案 大坪圭輔理事より、2017年大韓民国 大邱で開催されるInSEA世界大会に向けての広報活動を行いたい旨の提案があり、慎重審議の結果、第1号議案は全員一致をもって可決決定された。

第2号議案 水島尚喜理事より事業局の本年度の活動について、2015年8月24日25日武蔵野美術大学新宿サテライトを会場として、『造形・美術教育力養成講座、第二期2次(2年目)、子どもと造形表現』が開催された旨報告があり、来年度へ向けての提案があった。2年間で8講座をすべて受講した者は1名、本年度8講座全て受講者2名であった。その3名に修了認定書が発行された。内容と運営について慎重審議した結果、第2号議案は全員一致をもって可決決定された。

第3号議案 山口喜雄理事より第49回日本美術教育研究発表会2015の運営について、開催日平成27年10月18日、会場、東京家政大学との提案があった。発表申込件数は38件であった。運営委員役割分担。発表者の発表会場割り当て。司会者、論文主査、副査の分担。日本美術教育研究論集第49号編集の内容、編集日程などの提案があった。提案について慎重審議の結果、第3号議案は全員一致をもって可決決定された。

第4号議案 宮坂元裕理事より、理事改選選挙に関し以下の提案があった。

① 定款細則を改訂し、②被選挙人投票用紙に下記の文を記載する。

① 定款細則改訂

定款細則に「細則4 理事は正会員の投票により、当分の間得票数上位の者5名とする。なお代表理事の選任は前記5名の合議による。」を加える。

② 被選挙人投票用紙に以下の文章を記載する。

被選挙人投票用紙に「細則4 理事は正会員の投票により、当分の間得票数上位の者5名とする。なお代表理事の選任は前記5名の合議による。」と、『〇〇〇番宮坂元裕は「定款22条4. 代表理事は任期を5期ないし10年を限度とする。」の項目に該当する。』を記載する。

上記提案について慎重審議の結果、第4号議案は全員一致をもって可決決定された。

以上をもって議案のすべてを終了したので、議長は午後4時30分閉会した。

事務局だより

1. 第49回日本美術教育研究発表会 開催迫る！

10月18日（日）に行われる、第49回日本美術教育研究発表会（文部科学省後援予定）が東京都板橋区加賀の東京家政大学板橋キャンパスにて開催されます。多数のお申込ありがとうございました。詳しくは前掲のご案内をご参照ください。本年度は37件の研究発表が予定されています。広く日常的な実践のなかで児童生徒の姿をもとに紡がれた報告から、理論的・歴史的背景など科学的な精査から組み立てられた研究まで、多彩な発表が展開されることが期待されます。昨年度より発表会会費として、概要集代500円を戴く事になりました。運営上の経費としてご理解下さい。

2. 平成27年度（2015年度）会費納入のお願い

会費未納の皆様は、下記まで 年会費6,000円 を郵便振替にて納入してください。

（公社）日本美術教育連合 郵便振替00170-1-86036

※期限が過ぎておりますので、お早めに納入してください。※

※インターネットバンキングでもお支払いいただけます※

- * 前回の連合ニュースNo.144に同封した振り込み用紙をご利用ください。（手数料はご負担ください。）
お名前を記載した振込用紙に、納入済みの方は○、未納の方は－が、不足の方は△が印字されています。ご確認ください。
- * 平成24年度より、年会費及び論文掲載費の改訂がされています。振込みの際は、今一度金額のご確認をよろしくお願いいたします。つきましては、年会費を6,000円とさせていただきます。すでに本年度以降の年会費をご入金いただいている方は、誠に申し訳ございませんが、差額をあらためてご入金いただきますようよろしくお願いいたします。（振込用紙に差額を記載いたします。）
- * 平成19年度より会費の納入をお願いしておりますが、会員の皆様からの納入状況は決してよくありません。今一度、会員の意識にたち、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

▲3年以上の会費未納の皆様へ

- * 平成25年度から、過去3年以上、会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合、「除名」という対応をとらざるを得ません。納入にご協力ください。

■お問い合わせ：事務局長 結城 孝雄 東京家政大学

〒173-8602

東京都板橋区加賀1-18-1 9号館 初等教育第7研究室

Tel & Fax : 03-3961-5594（研究室直通）

Mail : takaoyuki@icloud.com